

子どもの「スキ、キライ」は本当？ わが子の体はわが子が食べたものでできている



チェック方法

- ①子どもに好きな食べ物と苦手で嫌いな食べ物をそれぞれ紙に書いてもらおう。親子で紙に書いてみる。子どもが書いたものを紙に書いてみる。親子で紙に書いてみる。
- ②親子で紙に書いてみる。子どもが書いたものを紙に書いてみる。親子で紙に書いてみる。
- ③書き終えたらお互いに見せ合おう。

長野県学校給食実施状況等調査によると、小学校99・7%・中学校97・3%が完全給食です。文科省の平成28年度調査によると全国平均が小学校99・2%・中学校90・2%、一番低い都道府県が27・3%ということから、長野県は高い実施率であることがわかります。そこで、学校から配布される献立表を使って、簡単なチェックをしてみました。

意外な結果にビックリ

☆汁物が好きだと思っていたら、汁物は一つも入っていませんでした。(小4娘) ☆家でサラダ類はほとんど口にしないのに、好きな献立は3つとも〇サラダでした。(小5娘)

思ったとおりでした

☆夕飯の献立が重ならないよう給食の献立表について話しているの、答えが同じでした。(小4娘) ☆きのこ類が苦手とかっていたんで、娘もやっぱり選んでいました。(中娘)

「食育」という言葉が定着してきたのはいつの頃からでしょう。この長野県PTA新聞でも、食の大切さや食育とは何かを何度も特集してきました。今回は、学校給食を窓口にも子どもたちの「食」について考えてみたいと思います。

長野県
PTA
新聞

発行

長野県PTA連合会

長野市旭町1098信濃教育会館内

TEL 026-235-4361

発行者/大島修

編集者/宮坂ゆかり

ホームページ

http://www.pta-naganoken.net

E-mail

office@pta-naganoken.net

Facebook



http://sites.google.com/view/naganopta-facebook/

全国表彰

日P全国大会・関東ブロック大会

県教委との教育懇談会

単位PTA訪問

4 3 2 2

給食では、地元で採れた食材を取り入れたりと、子どもにたくさん食べてもらおう工夫をしています。また、地域によって呼び方が異なりますが「希望献立」という工夫もあります。給食委員会を中心に、アンケートを取ったり、献立をまとめたりにしている学校が多いようです。



給食は毎日自分が好きな献立とは限りませんが、当然苦手な食材も出てきます。家庭では苦手な食材を残しがちな子どもたちも、給食では最後まで食べようという色々と努力している友達や、我慢して最後まで食べている友達、量を減らした友達、友達と交換して食べている友達、少しは食べるようにしている友達(中3女子)。

親はしっかりと食べて丈夫な子どもに育ってほしいと願っています。子どもたちは意外に頑張っています。親も味付けなどの工夫をして苦手な食材を食卓に並べるチャレンジをしてみましょう。大切なわが子の体は「わが子が食べたもの」でできているのですから。もちろん、私たち親の体も、もっと大切にしたいことがある。一つはいつか自立していく彼らに、自分の手で食事を作ることができるよう備えてあげられるかということです。最近会議の出席を任することが増えてきた。ある程度下ごしらえを施すこともあれば、彼らに任せることもあれば、魚好きの長男は、自分で魚を買って調理を楽しむまでに成長してくれた。それからもう一つ、家族揃って食事をするところ。子どもの成長とともに家族皆が揃う機会が貴重なことになってきた。大きくなった体を寄せ合い少し狭くなった食卓を囲むことは、その上ない喜びであり、どんな御馳走よりも価値あるものだと思う。

「今日の給食は？」 「久しぶりにコロッケよ」 「やったあ！ラッキー！」 わが家では毎日のように交わされる会話。母の献立が楽しみなのか、早くお腹を満たしたいのか、でもやっぱり私の料理に興味関心を持っているのだと勝手に思い込みで嬉しくなる瞬間でもあります。何よりも息子たちが今日も元気だということ、この会話ひとつで容易にわかるからだ。

食育という言葉もよく聞かれるようになった。今、バランスよく食べる、嗜好品との向き合い方も重要であるが、もっと大切にしたいことがある。一つはいつか自立していく彼らに、自分の手で食事を作ることができるよう備えてあげられるかということです。最近会議の出席を任することが増えてきた。ある程度下ごしらえを施すこともあれば、彼らに任せることもあれば、魚好きの長男は、自分で魚を買って調理を楽しむまでに成長してくれた。それからもう一つ、家族揃って食事をするところ。子どもの成長とともに家族皆が揃う機会が貴重なことになってきた。大きくなった体を寄せ合い少し狭くなった食卓を囲むことは、その上ない喜びであり、どんな御馳走よりも価値あるものだと思う。

「今日の給食は？」 「久しぶりにコロッケよ」 「やったあ！ラッキー！」 わが家では毎日のように交わされる会話。母の献立が楽しみなのか、早くお腹を満たしたいのか、でもやっぱり私の料理に興味関心を持っているのだと勝手に思い込みで嬉しくなる瞬間でもあります。何よりも息子たちが今日も元気だということ、この会話ひとつで容易にわかるからだ。

食育という言葉もよく聞かれるようになった。今、バランスよく食べる、嗜好品との向き合い方も重要であるが、もっと大切にしたいことがある。一つはいつか自立していく彼らに、自分の手で食事を作ることができるよう備えてあげられるかということです。最近会議の出席を任することが増えてきた。ある程度下ごしらえを施すこともあれば、彼らに任せることもあれば、魚好きの長男は、自分で魚を買って調理を楽しむまでに成長してくれた。それからもう一つ、家族揃って食事をするところ。子どもの成長とともに家族皆が揃う機会が貴重なことになってきた。大きくなった体を寄せ合い少し狭くなった食卓を囲むことは、その上ない喜びであり、どんな御馳走よりも価値あるものだと思う。

「今日の給食は？」 「久しぶりにコロッケよ」 「やったあ！ラッキー！」 わが家では毎日のように交わされる会話。母の献立が楽しみなのか、早くお腹を満たしたいのか、でもやっぱり私の料理に興味関心を持っているのだと勝手に思い込みで嬉しくなる瞬間でもあります。何よりも息子たちが今日も元気だということ、この会話ひとつで容易にわかるからだ。

カレーやからあげのような定番メニューもありますが、希望献立の中には、家庭の食卓にあまり並ばないような意外なメニューも多く見られます。

私たちは親は「ウチの子はあれが好き、これが嫌い」と思い込んでいるのでは？という苦しみ。苦しみから食べないだろうと思う食材でも、給食では美味しく食べているかも知れません。

朝ごはんは学習のウォーミングアップ。全国大会で優勝を逃した小4の時に「もっと背を伸ばしたい」と言われ、そこから食事の管理や生活リズムを整えるよう心がけました。特に朝ごはんに関しては「学校に遅れてもいいからしっかりと食べてほしい」と思っています。

「良い食材」は食べて美味いと思う食材だけではなく、むしろ苦しみながら食べている食材も知っています。たとえば、苦しみながら食べている食材も知っています。たとえば、苦しみながら食べている食材も知っています。

「今日の給食は？」 「久しぶりにコロッケよ」 「やったあ！ラッキー！」 わが家では毎日のように交わされる会話。母の献立が楽しみなのか、早くお腹を満たしたいのか、でもやっぱり私の料理に興味関心を持っているのだと勝手に思い込みで嬉しくなる瞬間でもあります。何よりも息子たちが今日も元気だということ、この会話ひとつで容易にわかるからだ。

食育という言葉もよく聞かれるようになった。今、バランスよく食べる、嗜好品との向き合い方も重要であるが、もっと大切にしたいことがある。一つはいつか自立していく彼らに、自分の手で食事を作ることができるよう備えてあげられるかということです。最近会議の出席を任することが増えてきた。ある程度下ごしらえを施すこともあれば、彼らに任せることもあれば、魚好きの長男は、自分で魚を買って調理を楽しむまでに成長してくれた。それからもう一つ、家族揃って食事をするところ。子どもの成長とともに家族皆が揃う機会が貴重なことになってきた。大きくなった体を寄せ合い少し狭くなった食卓を囲むことは、その上ない喜びであり、どんな御馳走よりも価値あるものだと思う。

「今日の給食は？」 「久しぶりにコロッケよ」 「やったあ！ラッキー！」 わが家では毎日のように交わされる会話。母の献立が楽しみなのか、早くお腹を満たしたいのか、でもやっぱり私の料理に興味関心を持っているのだと勝手に思い込みで嬉しくなる瞬間でもあります。何よりも息子たちが今日も元気だということ、この会話ひとつで容易にわかるからだ。

食育という言葉もよく聞かれるようになった。今、バランスよく食べる、嗜好品との向き合い方も重要であるが、もっと大切にしたいことがある。一つはいつか自立していく彼らに、自分の手で食事を作ることができるよう備えてあげられるかということです。最近会議の出席を任することが増えてきた。ある程度下ごしらえを施すこともあれば、彼らに任せることもあれば、魚好きの長男は、自分で魚を買って調理を楽しむまでに成長してくれた。それからもう一つ、家族揃って食事をするところ。子どもの成長とともに家族皆が揃う機会が貴重なことになってきた。大きくなった体を寄せ合い少し狭くなった食卓を囲むことは、その上ない喜びであり、どんな御馳走よりも価値あるものだと思う。

「今日の給食は？」 「久しぶりにコロッケよ」 「やったあ！ラッキー！」 わが家では毎日のように交わされる会話。母の献立が楽しみなのか、早くお腹を満たしたいのか、でもやっぱり私の料理に興味関心を持っているのだと勝手に思い込みで嬉しくなる瞬間でもあります。何よりも息子たちが今日も元気だということ、この会話ひとつで容易にわかるからだ。

2月始めに黄色の封筒に入ったご案内を各学校に配布させていただいております。 P T A 小・中学生総合補償制度

ケガをした
通院1日目から補償

ケガをさせた
自転車や歩行者と衝突した

物をこわした
友達の物をこわした

病気で入院した
日帰り入院から補償※・Gプランのみ

〇24時間いつでもどこでも補償します。

〇個別加入に比べて保険料は約52%割安です。(注)

〇保険料が年間3,000円のCプランでも日常生活個人賠償責任補償の支払限度額は1億円です。

(注)この制度の被保険者数と保険金のお支払い状況によっては、今後変更となる場合があります。

●自転車事故でも高額な損害賠償金を請求される場合があります。

引受保険会社：共栄火災海上保険株式会社 〇お問い合わせ先：小・中学生総合補償制度担当係

電話：026(234)2180

平成28年度に加入者数が、11,000人を超えて、平成29年度より新たに示談交渉サービスがつかえます。

4月1日補償開始の申込締切は3月23日です！

詳しくは学校で配布された黄色の封筒の中の

パンフレットをご覧ください。

申込締切日(消印有効)	
4月1日補償開始	3月23日
5月1日補償開始	4月25日
6月1日補償開始	5月25日

承認番号：B1722820A2119-20180126



東京都内での表彰式にて(11月17日)

全国表彰は、PTAにおける活動が社会教育の発展に貢献した団体・個人に対して行われるもので、教育の向上と文化の振興に寄与することを目的としています。

全国表彰

平成29年度の全国表彰において、本県からは6団体と4名が表彰の栄を受けた。以下に受賞団体と受賞者を紹介する。(敬称略)

日本PTA全国協議会会長表彰

(団体)

・小谷村立小谷中学校PTA

・長野市立三輪小学校PTA

(個人)

・石坂 修一 (平成27年度副会長)

・浅輪佳代子 (平成27年度副会長)

・熊谷 弘 (平成28年度副会長)

優良PTA文部科学大臣表彰

(団体)

・飯田市立千栄小学校PTA

・飯山市立東小学校PTA

全国小・中学校

PTA広報紙コンクール

(佳作)

・茅野市立玉川小学校PTA

・長野市立西部中学校PTA

全国PTA三行詩コンクール

(佳作)

・田中 鎌之介

(松本市立旭町中学校2年)

小谷村立小谷中学校PTA

参加したくなるPTA活動の実施

小学校、中学校とも二村一校である小谷村。生徒数が年々減少していく中、PTAの参加率を上げながら、地域と連携することを目指し、以下の取り組みを行った。

①授業参観・学級PTAへの参加率を上げるために、授業内容や見学をしながら、27年度から中学校全体でボランティアとして参加を促している。子どもたちは、お客様のおもてなしを担当し、PTAは主に子どもたちの送迎で協力した。

②村の一大行事である「塩の道祭り」に、27年度から中学校全体でボランティアとして参加を促している。子どもたちは、お客様のおもてなしを担当し、PTAは主に子どもたちの送迎で協力した。

③保護者も子どもたちも地域の一人としての役割を担い、地域と共に関わり合いを育む活動を続けている。



所を紹介するなど工夫した告知を複数回行った。周知されるにつれて参加率が上がった。また、25年度から小中学校合同の講演会を実施している。小中ともに子どもたちの活動を支えたいという考え、取り組んだ。

①学校支援ボランティアについてのアプローチを実施し、登録リストをまとめる等の協力に伴う費用の捻出に協力できた。

ボランティア支援が広がることで、学校とPTAのつながりが深くなっている。住民自らの活動に各学級の活動に協力し、地域にも募集の学習活動を「購入」ワークを作った。子どもたちが販売する鉢植

日本PTA全国協議会会長表彰(団体)

学校教育への積極的支援のあり方



「自分の力で未来を進めたい」という思いから、PTAがどのように子どもたちの活動を支えたいかを考える、取り組んだ。

①学校支援ボランティアについてのアプローチを実施し、登録リストをまとめる等の協力に伴う費用の捻出に協力できた。

ボランティア支援が広がることで、学校とPTAのつながりが深くなっている。住民自らの活動に各学級の活動に協力し、地域にも募集の学習活動を「購入」ワークを作った。子どもたちが販売する鉢植

長野市立三輪小学校PTA

全国PTA三行詩コンクール

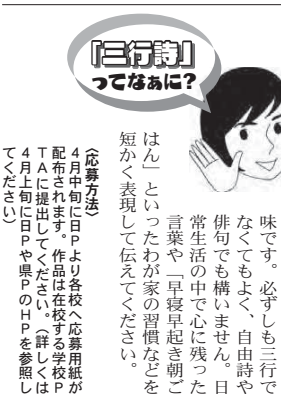
中学の部 (佳作)
ばくよりすこいよ
母の喜怒哀楽
思春期なのに気を遣う

田中 鎌之介
(松本市立旭町中学校2年)

文部科学大臣表彰(団体)

飯山市立東小学校PTA

PTAのスローガン「すべては子どもたちのために」の基本目標第1項に「あいさつをしよう」が掲げられている。PTAと学校運営協議会が中心となり、「あいさつで明るい郷づくり」という願いのもと、毎月11日を「あいさつの日」として取り組んできた。厚生部が中心として登下校時の安全確保とともに、あいさつや声かけをするなどの活動を行っていることも、あいさつ運動の礎となっている。学校・家庭・地域での子どもたちの元気なあいさつで、皆がつながる地域を目指している。



三行程度の短文の意図です。必ずしも三行でなくてもよく、自由詩や俳句でも構いません。日常生活の中で心に残った言葉や「早寝早起き朝ごはん」といったわが家の習慣などを短く表現して伝えてください。

(応募方法)
4月中旬に日により各校へ応募用紙が配布されます。作品は在籍する学校PTAに提出してください。詳しくは4月上旬に日Pや県PのHPを参照してください。

第49回 日本PTA 関東ブロック研究大会

～群馬大会～



10月21・22日に日本PTA関東ブロック研究大会が群馬県で開催された。全体で約4000名、長野県PTA連合会からは61名が参加した。1日目の「安心安全」をテーマとした第6分科会では、諏訪地区PTA連合会と外部団体と連携した、ドローンを使った登下校の見守り実験の報告を行った。PTAが外部団体と連携すること

第65回 日本PTA 全国研究大会

～仙台大会～



2日目の全体会では、歓迎アトラクションに続いて、ウェイトリフティング、オリンピックメダリストの三宅宏美氏とその父、義行氏による「オリンピックへの挑戦」と題した記念講演が行われた。仙台の地で学び、考えたことを、学校や家庭、地域にも還元できるよう努めていきたい。



僕たち! 私たち! がつくっています!

信州の牛乳を飲もう!

長野県生乳生産販売委員会
信州 JA全農長野
長野県牛乳普及協会

毎年開催の料理コンクール受賞作品のレシピ等ご覧いただけます。 やっぱ信州の牛乳でしょ 検索

長野県教育委員会と 県PTA連合会との教育懇談会

共に創り出そう大きなうねりを



あいさつする原山教育長

県教委 自殺の原因について、親御さんにも学校にも心当たりのないケースが半数以上である。非常に真面目・勤勉といわれる県民性が関係しているかは踏み込めていない。

県PTA 相談支援体制の充実を図っていただけたら、SNSについても、悩み相談がたつた2週間で2倍の547件になったと聞く。今後も気軽に相談できるシステムを続けたい。また、いじめ防止の認知はどのように進めるのか。

県教委 ネット対策については、子ども自身自身がルールを作成する環境づくりをしていきたいので、保護者の協力もお願いしたい。いじめの定義はあるが、いわゆるケンカでもいじめとなるケースもある。大事なことは、小さなことでも学校で共有していくこととする組織の構築だと考える。

県PTA 回答では、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める取り組みを意識的に進めていく必要があるとされているが、具体的には何か。

県教委 例えば、小学校では仲間づくりの取り組み、中学校では、一日の中で、仲間感謝の内容を言葉で伝える取り組みがある。自己肯定感、自分と他人との関係を肯定的に受け入れることで生まれると聞く。家庭でも子どもの自己肯定感が高まる関わりをしてほしい。

県PTA スタート当初に実践発表を聞く機会があり、情報共有でき、非常に助かった。今後も実践発表の機会を継続的に企画してほしい。

県教委 年に春、秋などとして、予定を決めて、好事例などを皆さんに伝えていきたい。

県PTA 私たちPTAとして、具体的などのような対応をすればよいか。県教委 保護者の皆さんは共同メッセージに沿って「働き方改革」を理解し、納得していただき、実施することにした。

県PTA 私たちが学校の現状がよく知ることが必要だ。県PTAが本日の内容を都市PTA、単P、学級PTAまでフィードバックすることが大切だと実感した。

県PTA 全国と同様に、長野県においても教員の長時間勤務が看過できない状況である。働き方改革は、子どもたちにとって最も大切な授業の質を高めるためのものである。様々な取り組みを、実行するためには市町村教育委員会と連携し、保護者や県民の理解を得ながら進める必要がある。11月には、「働き方改革」のための共同メッセージを公表したところ。今後PTAの皆さんから意見を伺いながら進めたい。

大桑小PTAと「オオクワガタCS」による文化伝承に向けた取り組み

大桑村立大桑小学校PTA

少子高齢化や核家族化が進み、子どもたちが地域住民と接する機会が減少していった。地域の文化が消失しないよう文化伝承と地域づくりを推進していきたいと考えた。

研究内容 平成27年度に誕生した信州型CS「オオクワガタCS」は、学校・保護者・地域、教育委員会での構成されている。地域への帰属意識や文化伝承への関心を高めることを目的に、地域の史跡巡り「須原宿を歩こう」をPTAと共同で企画立案した。「オオクワガタCS」の

コーディネーターを通じて、史跡巡りの案内ができる方を紹介していただくよう依頼し、夏休みに実施した。参加者からは「普段は車で通り過ぎるし、今更だ、じっくり歩くことはなかった。今回参加して村の成り立ちがわかり、ふるさとの見方が変わった」「大桑村に住んでいながら知らないことが多かった。多くの感想が寄せられた。

成果と課題 史跡を巡ることで大桑村の文化に接する機会が提供できた。

PTA実践報告

第26次
研究委嘱

「治田」子キビキエックの有効活用

千曲市立治田小学校PTA

児童が学校生活で見せてくれるキビキエックの姿の継続を願い、家庭生活の面から子どもたちをサポートしようという平成23年度から行っている「キビキエック」の更なる有効活用を検討、実施することにした。

研究内容 各学期に「治田」子キビキエック週刊を、治田小学校PTAオリジナルの「キビキエック」表を、子育て支援委員会が作成し、各家庭に配布。親子で「キビキエック」表の内容をチェックし、記入するようにした。

①「キビキエック」アンケートの実施
一学期：スタート編
二学期：お手伝い編
三学期：メディア編
②「キビキエック」アンケートの集計、解析
③6年生保護者向けに「キビキエック」有効活用アンケート実施、集計、解析
④「キビキエック」有効活用方法の検討及び実施と保護者へのフィードバック
内容は、全学年共通としているが、実施方法は学年に応じて、各家庭で工夫するようにお願いした。

児童生徒数減と資源回収のあり方

飯田市立飯田西中学校PTA

児童数・世帯数減少に伴い、資源回収において、地区ごとの負担格差がある。このことについて改善の要望があるため、1年次研究「共通する学区を持つ飯田西中学校と丸山小学校の共同で資源回収実施」案の検討、2年次は資源回収の目的に対する認識を確認することと研究の内容とした。

研究内容 ①小中共同による資源回収の実施案の模索
共通する学区を持つ小中共同による資源回収について意見交換を行った。課題が明確となり、すぐに実施できない現状を研究の課題とした。

②資源回収に対する意識調査と分析
資源回収の目的、やり方改善の必要性、負担感、子どもたちの参加意欲についてアンケートを実施した。半数以上の保護者は資源回収の目的を「学校運営の資金のため」と考えていることがわかった。資源回収のやり方については、現状のままでも良いという意見と改善の余地があるという意見が半々であった。

成果と課題 目的を明確にすれば資源回収に対する負担感が軽減し、参加意識が高まる。今後の具体策の検討が待たれる。

小規模校の充実のためにPTAとしての関わり方

中野市立豊田中学校PTA

生徒数が減少し、小中学校適正配置の地域議論がある中で、PTAと学校が一体となって、いかにPTA活動の充実や学校の支援を図っていくかを考えた。

研究内容 ①保護者アンケートの実施・分析
小規模校のメリット・デメリット、「PTA組織」活動上の問題点と工夫などのアンケートを実施し分析した。
②役員決めやPTA組織の工夫
アンケートの結果を参考に、複数の地区を統合して対応した。

合して地区代表議員の選出をした。また、学年・学級の代表議員が減少したため、専門部の部長を一般会員の中から選出した。三役については、全体の意向と学年の現状を考慮できるように会則を変更して対応した。



③学校・PTAと地域の連携
学校が進める「信州型CS」のイメージ図を参考にPTA専門部と学校支援ボランティアをリンクさせる。環境整備事業や園芸作業の協力要請をボスターなどで地域住民に発信し、協働で取り組んだ。また、PTA新聞で学校の様子を地域に知らせるページを加えた。

成果と課題 アンケートをもとにPTA組織の工夫や会則を変更し、適切な役員数を確保することができた。また、校区2小学校の統合に向けて、小中双方の教育活動が円滑にできるように市教育委員会に提案し、地域との連携を更

に図っていった。

地域と共に受け継ぐ



長野市

とうぶ

東 部 中 学 校

長野市の北東部に位置し、北しなの線が走る吉田地域に東部中学校はある。地域の強い要望により、昭和23年に長野市で4番目に開校し、本年度、創立70周年を迎えた。学校目標「道ひとすじに」のもと、自ら考え行動し、地域とのつながりを大切にしながら701名が学んでいる。

単位PTA訪問
No.89

トイレピカチュウ大作戦

東部中PTAの特徴的な活動として、親委員会が中心となつて行う「トイレピカチュウ大作戦」がある。普段生徒が使っているトイレを、半日かけて綺麗に磨き上げる活動だ。今年度は9月の土曜日、総勢50名程で、各校舎、体育館、格技室など、全てのトイレを分担して実施した。便器だけでなく、床や壁も全てピカピカに磨き、まさに「ピカチュウ大作戦」である。

「週明けに登校した生徒をビックリさせようという気持ちで磨いた」と

花で美しい学校に
PTA環境部と生徒会
緑化委員が合同で、春と秋の休日に緑化作業が行われる。これは、PTAと生徒が一緒に、学校の周りを花で美しくしようとする活動だ。今年度の春には、PTA役員と生徒それぞれ30名程で300台のプランターにマリゴールド、ベチユニア、サルビアなど色とりどりの花の苗を植え、昇降口をはじめ、廊下やベンチなど、色々な場所を飾った。



ただ今、緑化作業中



たくさん買ってね

今年度は文化祭と、70周年式典を一緒に行った。特別にバザーも行い、地域の方が提供品を学校に持ち込み、生徒が販売するなど、地域・生徒・生徒と協力して行われた。

取材を終えて

「地域の方は普段から生徒たちを気にかけて、愛してくださっていると感じている。今後も学校・家庭・地域が共に活動する機会を増やしていければ」と保科会長は語った。

◇広報委員
○青藤 義彰(中) 高
○川口 彰(上) 水
○森下 秀治(殿) 伊
○小林 英明(大) 北
○湯本 英美(上) 小
○宮澤 志郎(殿) 訪
○林 とも美(塩) 筑
○宮坂 由佳(上) 高
○山崎 由佳(長) 野
○市
◇新聞編集部長
○宮坂 由佳(上) 小
○橋本 郁子(井) 小
○関 富子(井) 小
○宮本 信子(城) 小
○和藤 由佳(相) 中
○伊藤 由佳(相) 中
○小林 恵美子(吉) 小
○西澤 洋子(湯) 小
○井上 亜里(須) 小

地域ぐるみで見守り育てる



大町市

みあさ

美 麻 小 中 学 校

大町市北東部に位置し、標高952メートルの高台にある美麻小中学校は、雄大な北アルプスが眼前に広がっている。本年度より小中一貫教育を進める「義務教育学校」としてスタートした。「心と体をひらいて学ぶ美麻の子」を学校教育目標に、山村留学生15人を含む85名の児童生徒が元気に過ごしている。



本が待っていますよ

今回の取材に同席された「美麻地域づくり会」会長の前川氏は「自分の子どもが卒業しても学校に関わっている。PTA会員でなくなってもPTAだと思っている」と語った。地域の熱い思いから、平成26年度にコミュニティスクールを立ち上げ、PTA全員が学校支援ボランティアとして

毎週月曜と水曜日は図書館の蔵書整理を行う図書ボランティアとして、PTAの皆さんが参加している。整理が追いつかなかった学校からの依頼により始まったもので、当初は子どもたちとおしゃべりをしてしまうこともあったそう。現在はお母さん方が本を読み、おもしろいと思った本を子どもたちに伝えることで、子どもたちの図書利用率アップにつなげている。

地域ぐるみのPTA作業
PTA協議委員会が中心となり、地域の学校支援隊も協力して、年2回PTA作業が行われる。5月には学校敷地内にある木の伐採とフリンコース作りを行った。学校玄関前広場は、古い木が茂り過ぎて見通しが悪かったため、数年前にもPTAと支援隊が協力して木の伐採や山野草の移植を行った。整備をしたことで、地域の方が山野草のお世話のために学校に足を運ぶ機会が増え、地域の方と子どもたちが集う憩いの場に変わった。学校や子どもたちのために、地域ぐるみの作業は毎年続いている。

カリフォルニア州メンディーノ姉妹都市交流は毎年7月に行われ、37年間続いている。学校・行政・ボランティア・地域の自治会・PTAによる実行委員会が支えている。今年度は、メンディーノより28名が美麻にホームステイし、様々な体験・交流を楽しんだ。歓迎・お別れセレモニーでは、PTAのお母さん方が中心となり、手料理でもてなした。



最高の「お・も・て・な・し」

なした。事前にメントシノの子どもたちの食物アレルギーを確認し、英語で料理を指示したりより美味しい料理を研究したりと、一人ひとりを心を込める。歴史ある交流のために、子どもたちも精一杯準備に励んだ。言葉の壁を超えた交流は、親子共に貴重な体験となっている。

取材を終えて
全戸配布されるコミュニティカレンダーには、地域・公民館・保育園・学校の行事が掲載され、美麻の事は誰でもわかるようになっている。地域には学校支援が生きがいになっている方もおられるようだ。地域の方々の愛情を感じて元気に伸び伸び過ごす生徒たちが印象に残った。

編集後記

初雪の便りが届き始めた晩秋のある日、小学2年生が豆腐作りの体験をしたり、一人ひとりを分たてて育てた大豆を、今年に予定だったのが、使えなくなりました。先生は、地域の農業委員さんと、以前豆腐屋さんを営んでいた地元の方、大豆をミキサーにかけ、じっくりと煮立ててから魔法の粉を入れて絞って、型に流し込んだ。出来上がった豆腐を食べてみて、子どもたちは「本物のお豆腐みたいだ」と喜んだ。

その日の午後、高学年は夏休みに種をまき、10月までに刈り取ったそばを脱穀した。乾燥させたそばは、はたいて実を落とす、その後実だけを分けて、1月には一連の作業でお世話になった地域の方に引き継ぎ指導いただき、自分たちの手でそばを打って全校で試食会を開いた。子どもたちは食べることの楽しさや大切さを実感する。それが少しでも食物への感謝の気持ちにつながることを願っている。(T・H)

給食

の

たのしい

子どもたちのために

公益財団法人 長野県学校給食会

〒381-0103 長野市若穂川田3800番地5
TEL 026-282-6080 FAX 026-282-6535